

家庭での子どもとの関わり方

不登校のお子さんをもつ保護者の方から「家庭でどのように子どもと関わればよいか分からない」という相談を受けることがあります。また、その試行錯誤から、よい関わり方を見つけられた保護者の方もみえます。そこで、家庭での子どもとの関わり方について、うまくいった関わり方の例を一部紹介します。

【ウォーキングする】

一緒に景色を見て話をするうちに子どもの感じ方を知ることができた。コースの計画を立てる中でコミュニケーションが増えた。

【ゲームをする・アニメを見る】

ボーっとゲームばかりしていると思っていたが、「こんな複雑なことをしているのか」と驚いた。ゲームやアニメを通じて会話が増え、本人の好きなものを話してくれるようになった。

【子どもの興味のあるところに出かける】

「学校に行くため」に何かするのをやめて、学校に限らず、本人の興味のあるところ（美術館や博物館）に出かけるようにした。自分でも何かを作ってみたいと、作品作りに没頭、いきいきした表情になった。



須磨 一剛 先生（精神科医）

名古屋大学医学部精神科児童部所属。パークとよたでは、児童精神相談員として様々な相談対応に従事している。精神科の病院では、児童精神科外来を担当している。

須磨先生には、専門的なアドバイスやおすすめの関わり方についてお話をいただきました。

子どもの言動が気になると親としてはどうしてもすぐに注意したくなります。ただ、それでは親子ともに感情的になってしまうことが多く逆効果です。その場での注意は必要最低限にとどめ、場所と時間を変えて話し合う方が効果的です。

たとえば、一緒に散歩をしたとき、子どもの好きな場所で一緒に遊んだ後に振り返るのもよいでしょう。その時に、最近の出来事を振り返るだけでなく、以前と比べて子どもが成長したことを先にほめてあげると、子どもの自尊心を高め、自立心を養う効果も期待できます。また、親自身が自分の過去を振り返り、上の世代からアドバイスを受けて成長したことを話してあげましょう。子どもも親が今の自分と同じように苦労したことを知ると親しみを感じて、より親の話に耳を傾けやすくなるでしょう。

子どもから相談を受けたら、その内容が親から見ると悪いことであっても、まずは叱責せずに伝えてくれたことをほめてあげましょう。そうすれば、今後も困ったら相談でき、自ら成長できるようになります。

ただし、対応が難しいと思ったら、抱えこまずに専門家等に相談してください。たとえば、多動や衝動性が激しくケガをしたりケガをさせたりする、他の子と遊ばず社会性が乏しい、「見張られている感じがする」「いない人の声が聞こえる」「ないものが見える」などと話す、気分の変動を周期的に繰り返す、気分の落ち込みがひどく「死にたい」と訴えるなどです。遠慮せずに早めに相談し、専門家につなげることも大切です。

教えて！堀先生！！



心理の専門家である堀スーパーバイザーに、不登校の子をもつ保護者の方から寄せられた悩み、疑問などに答えていただきました。

堀 英太郎 先生（臨床心理士）

大学院卒業後、病院や学校でカウンセラーとして、悩みを抱える子どもたちやその保護者の方の相談に携わってきた。現在は、パルクとよたのスーパーバイザーとして、スクールカウンセラーなどへの助言を通して、子どもたちが抱える悩みと向き合っている。

最近、子どもが学校へ行くのを嫌がります。無理やり行かせてよいものか判断に迷います。見守るべきでしょうか？



とても難しく、そして大切なご質問ですね。

どう判断するかを考える上で、まずはお子さんがどのような状態であるかを見立てることが重要となります。たとえばご家庭で、元気に過ごしているのか、退屈そうにしているのか、周りの目を気にして部屋に引きこもりがちであるのか、などです。

学校の先生方や、心理・福祉の専門家などにも相談していただければと思います。



不登校の子どもがいます。家族や専門家の先生と相談し、「受け入れて見守ろう」と決めました。その後数年経ちましたが、特に変化はありません。いつまで見守ればよいのでしょうか？



関心を持ち続けながら見守る、これもとても大切な視点です。

子どもは、たとえ不登校の状態が続いていたとしても、変化しています。ですので、保護者の皆様方だけでも構いませんので、相談に通い続け、お子さんの小さな変化に気づいていく、この作業を続けていくことが重要になるのではないでしょうか。

そして、この保護者の試みや想いは、お子さんに伝わるのだと思います。



ラポール交流活動

今年度は11月27日（木）に豊田市博物館のアクティブラーニングツアーに参加しました。子どもたちは、豊田市の最強生物「クマムシ」を探したり、顕微鏡を使って観察したりして、楽しい時間を過ごしました。

参加者の感想

- ・たくさんのクマムシを見つけることができ楽しかったです。珍しいクマムシを発見している人もいてすごいなと思いました。（子ども）
- ・クマムシ以外にもいろいろな虫がいておもしろかったです。また、博物館に来て、いろいろ見つけたいです。（子ども）
- ・子どもが楽しそうでした。名人の方に褒めてもらってうれしかったようです。（保護者）
- ・子どもの生き生きとした表情を見ることができてよかったです。（保護者）

